

平成30年度 大田区立入新井第四小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

○本校は、「じぶん」っていいな “ともだち”っていいな が いっぱいの学校」をめざし、児童の自尊感情の醸成をすべての教育活動の基底として、すべての教職員がすべての児童を育てる教育実践をして参ります。○本校は、子供たち一人ひとりに学校生活の「今」を充実した楽しいものにしてほしいと願うとともに、子どもたちが「未来」をたくましく生き抜く力(主体性や共感性、レジリエンスなど)を培いたいと考えています。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4: 80%以上の児童が毎学期の期末テストにおいて、70%以上の習得率を示す。	4	今年度、期末テスト(国語、算数、理科、社会)において、どの学年も8割以上習得することができた。 単元末テストは、全学年間違い直しを徹底した。 家庭学習計画カードを1週間前に立てさせ、計画的に学習するように指導した。 今後めあてをたてさせ、指導を継続させる。	・「期末テスト」の取組は、児童に学習の節目を意識させる意味でよい取組であると考え。 ・今年度より土曜補習の取組を新たなプランで始めたことにより、児童一人一人の学習意欲を高めたと感じる。 ・ゲストティーチャーを招いての授業は、前向きな生き方を学ぶ良い機会になっていた。 ・学力向上に対する様々な取組を学校が積極的に行っていることが理解できる。引き続き指導をお願いしたい。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 70%以上の児童が毎学期の期末テストにおいて、70%以上の習得率を示す。			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2: 60%以上の児童が毎学期の期末テストにおいて、70%以上の習得率を示す。			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1: 60%未満の児童が毎学期の期末テストにおいて、70%以上の習得率を示す。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	東京ベアシックドリルを活用し、前学年学習事項の習得率を向上させる。			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 80%以上の児童が学校評価で「自分は学習のルールを守っている」と肯定的に回答した。	3	年間を通して、「学習規律10の約束」を全学年で取組み、学習規律の徹底を図った。 毎週、学級ごとに自己評価をして次のめあてをもたせた。 児童による学校評価の結果を全校朝会等で周知させ、全校児童で取り組もうという意識付けをさせた。 来年度は、日常の授業改善と学習規律の徹底を継続していく。	・「学習規律10の約束」は、学校が落ち着いた学びの場となるために良い取り組みであると考え。 ・定例会に参加して、学校が、ご家庭と子どものことを第一に思い、行動していることに頭がさがりません。 ・いじめの対応が適切であり、児童に対しても適切な指導を行っていると感じる。 ・不登校児童に対して地域と連携し丁寧に対応していると感じる。 ・ルールを守るといことは社会人にとって当然のこと。小学校の時からルールを守るという意識付けは大切と感じる。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: 70%以上の児童が学校評価で「自分は学習のルールを守っている」と肯定的に回答した。			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2: 60%以上の児童が学校評価で「自分は学習のルールを守っている」と肯定的に回答した。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1: 60%未満の児童が学校評価で「自分は学習のルールを守っている」と肯定的に回答した。			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	学習・生活スタンダードを明確にし、子どもたちがきまりよい学校生活を送れるようにする。			
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4: 80%以上の児童が学校評価で「めあてをもってすすんで運動した」と肯定的に回答した。	3	マラソンタイムや入四マラソン、大縄跳びを年間を通して、継続的にめあてをたてて取り組ませている。 がんばる気持ちが自分を伸ばすという実感を待たせる指導や評価を行っている。	・マラソン大会1か月前から毎朝、ほぼ全員が、朝練習に取り組む姿勢は見ていて、清々しく。教員も一緒に走る姿に感動しました。 ・マラソン大会を見て児童間の体力差を感じた。 ・マラソン大会は、自分に挑戦し、児童が互いを認め合う機会にするという目的がよい。今年から全員のタイムを取ってあげたこともよい。 ・始業前に校庭で遊ぶ子供たちを見ているとルールを守る大切さや優しさが伝わってきていることがわかります。 ・スポーツを通じてあきらめない気持ち、頑張る気持ちを育み、強い心と体作りさらに取り組んでいただきたい。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3: 70%以上の児童が学校評価で「めあてをもってすすんで運動した」と肯定的に回答した。			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2: 60%以上の児童が学校評価で「めあてをもってすすんで運動した」と肯定的に回答した。			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1: 60%未満の児童が学校評価で「めあてをもってすすんで運動した」と肯定的に回答した。			
		マラソンタイム・マラソン大会等とおし、めあてをもって主体的に運動に取り組む姿を育てる。				
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 80%以上の児童が学校評価で「先生は、分かりやすく授業を教えてください」と回答した。	4	習熟度別授業等の指導方法の工夫改善を行い、わかりやすい授業に取り組んでいる。 土曜がんばる教室と放課後補習を通して、学習内容が未定着の児童に対する学習を支援した。 2割の児童に対しても児童理解を深め、きめ細やかな指導を行っている。	・「教師は授業で勝負する」授業が子どもたちにとって充実した時間、体験となることが心の成長にもつながる。 ・土曜がんばる教室に丸付け先生として参加して、○もらった子どもたちの生き生きと明るい笑顔が素晴らしいと思いました。勉強するって楽しいなと感じてくれているようです。 ・先生方が毅然とした態度で指導してくれていることに9割以上の児童が回答していること教師への信頼が表れていると感じる。 ・半数以上の児童が「クラスは静かで集中して学習しやすい」と考えていないというのは、学校公開でも感じる場所である。さらなる改善が求められる。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: 70%以上の児童が学校評価で「先生は、分かりやすく授業を教えてください」と回答した。			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2: 60%以上の児童が学校評価で「先生は、分かりやすく授業を教えてください」と回答した。			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1: 60%未満の児童が学校評価で「先生は、分かりやすく授業を教えてください」と回答した。			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	すべての教員が授業改善の視点を明確にし、研究・実践に取り組む。			
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 80%以上の児童が学校評価で「家庭で計画的に進んで学習した」と肯定的に回答した。	3	学期末テスト前に、家庭学習の取組方法を指導し、計画を全員に立てさせて取り組ませた。 今後は、主体的に取り組んでいけるように復習の他にも、予習学習を進めていく。	・三中のアンケートでは、生徒・保護者との家庭学習ができていないと感じている様子がうかがえるので、小学校の時から学校と家庭が連携して家庭学習の習慣を付けられるとよい。 ・スクールサポートいりしが、学校のニーズを適切に把握し、そのニーズを地域につなげる役割を十分に果たしてくれていると感じる。 ・学校、地域、家庭の連携とは、まず、それぞれの役割をそれぞれが責任をもって果たすことであると考え。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: 70%以上の児童が学校評価で「家庭で計画的に進んで学習した」と肯定的に回答した。			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2: 60%以上の児童が学校評価で「家庭で計画的に進んで学習した」と肯定的に回答した。			
		毎学期の期末テスト前の家庭学習の取組などとおし、主体的・計画的に家庭学習に取り組む態度を培う。	1: 60%以上の児童が学校評価で「家庭で計画的に進んで学習した」と肯定的に回答した。			